

サーキット・ライダー 2002年10月号

心を騒がしてはいけない

ある日のこと、イエスが弟子たちと一緒に舟にのり、「湖の向こう岸に渡ろう」と言われたので、船出した。渡って行くうちに、イエスは眠ってしまわれた。突風が湖に吹き降りて来て、彼らは水をかぶり、危なくなった。弟子たちは近寄ってイエスを起こし、「先生、先生、おぼれそうです」と言った。イエスは起き上がって、風と荒波とをお叱りになると、静まって風になった。イエスは、「あなたがたの信仰はどこにあるのか」と言われた。弟子たちは恐れ驚いて、「いったいこの方はどなたなのだろう。命じれば風も波も従うではないか」と互いに言った。

ルカ 8：22—25.

夏が終わるや否や、9月は色々なことがありました。コンピューター・ウイルスに感染し日本語機能が使えなくなったり、アメリカ人の教会員のお葬式、追悼式が3つ続いたり、9月11日の一周年式、教会年次総会を9月末に予定し、総会報告や準備に追われたり、そして9年ぶりに正式に学生の身分になり、週に3回ニューヨークに通う身分になったりと、目まぐるしい変化にまだ付いていけない状態です。9月は上述の理由でサーキット・ライダーが書けず、一部の方にご迷惑をお掛けしました。この場を借りてお詫びいたします。

人は忙しいと、色々な事において心が不安になったり、回りにもその焦っている状態を見せて不安にさせたりしまう傾向にあるようです。私もその例外ではなくしばし心を失っていました。望んで入った学校ですが、仕事をしながら学ぶというのは思っていた以上に大変で、毎週のように数百ページも課題図書、印刷物を読むのに追われ、教会のオフィスで仕事をしている時も何だか焦って、教会に居ても、勉強のことが気になり、勉強している時は総会の準備や、病院に入院している教会員のことを気になり、虻蜂取らず状態になり、ますます心落ち着かなくなっていました。ある朝、寝坊して慌てて起きて、バスルームに行った時、自分の顔を見て、何だか時間に追われているような強迫観念に駆られている顔をしているように思われ、教会のセクレタリー（私のセクレタリーではありませんので念の為。）に「今の私は、追われているような、焦っているような状態に見えますか？」と率直に訊いたら、気を遣って「そんなにひどくはないけど、そういう感じがします。」とってくれました。

それだけで充分。私は深呼吸して、セクレタリーに一言断り、祈りの時間を持ちました。マルチン・ルター言葉「忙しい時ほど祈る。」を思い出したからです。ルターは忙しい時ほど祈らないと心が不安になり、神から離れ誘惑に陥りやすいと考え、より祈りに時間をかけたようです。メソジストの創始者ジョン・ウエスレーもどのように忙しくても日々の祈りを欠かさないどころか、更に祈り、讚美、礼拝、学び、聖餐式を持つようにしていたようです。私たちは忙しいとそれを理由に、他の事、祈り、礼拝、聖書の学び、善行などを削除してしまう傾向にあります。また、何か心が不安になっている時も、より祈らなければならないのに祈りを忘れ、おじ惑っていることが多いようです。

イエスの弟子達はイエスと共に舟に乗り込みました。イエスとは言えば伝道やあちこちで貧しい人、病人、罪人を癒して回っていたので疲れていたのでしょう、舟に乗って程なく寝込んでしまいました。その時、突風が吹き荒れ湖が荒れ始めました。波も高くなり、弟子たちは舟が沈むのではないかとうろたえました。そしてイエスを起こして助けを求めました。勿論、イエスは波と風を沈めたわけですが、私は奇跡そのものよりも、弟子達に対するイエスの叱責の言葉に自分に対するお叱りを頂いたように読みました。神の子、救い主イエスと共にいながら、舟が沈んで溺れてしまうかもしれないと、恐れおののいた弟子達は正に私たちの姿です。皆さんの人生が湖、舟に乗っているのは皆さんです。人生色々なことがあります。いつも順調ではありません。時に雨も降れば風も吹く。仕事、家庭、人間関係で嫌な思いをしたり、躓いたり、思わぬ災難、病気になる。そんな時私たちは不安になったり、絶望を体験します。しかし神が共にいて下さる。イエスはいつも私たちと共にいて下さいます。時に居ないように思えることがあっても。

弟子達はイエスと一緒に居たのにうろたえ、恐れてしまいました。私たちはどうでしょう。イエスが共にいて下さることを忘れて、うろたえないように何時も祈り、心に平安を維持していきたいものです。

吉松 純